＼天草の海を守ろう！／

保存版

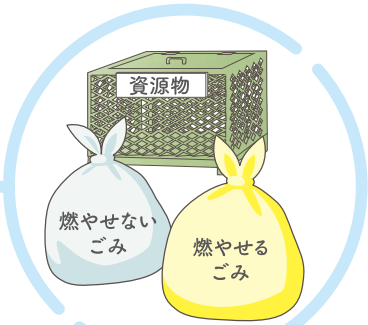
資源物・ごみ分別辞典

倉岳　版



きれいに
洗って





正しく
分けて



資源化
しよう！



ともにつながり　幸せ実感　宝の島“天草”

天草市

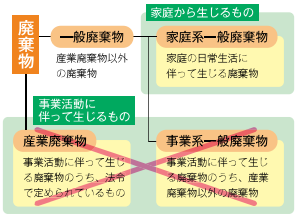
令和5年度製作

目次/index

はじめに …… 2
使い捨て型社会から循環型社会へ …… 3
海ごみについて …… 4
拠点回収について …… 6
ごみ・資源物の分け方図解 …… 8-19
ごみ・資源物分別辞典（50音順） …… 20-34
在宅医療廃棄物について …… 35
市で収集できないもの …… 36
ごみ処理施設紹介 …… 38
一般廃棄物処理業許可業者一覧 …… 39

・この冊子は、家庭から出るごみ（一般廃棄物）の出し方を解説したものです。
・事業所から出るごみは、地区のごみステーションに出すことはできません。自社で処理をするか、廃棄物処理業者に委託して処理を行ってください。

産業廃棄物・事業系一般廃棄物は、ごみ集積場所には出せません。



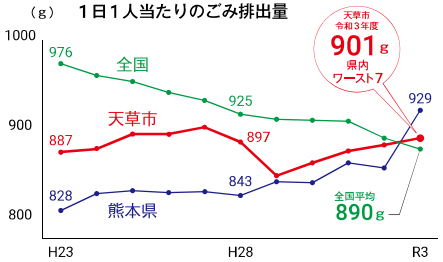
・ルール違反は収集しません！
市民の皆様が気持ちよく暮らせるよう、ごみ出しはルールとマナーを守って行いましょう！
・この冊子はあくまで原則的なごみの分別方法を解説したものです。物によっては例外的な処理をするものもあります。どうしても判断がつかない場合は市役所にお尋ねください。
・この冊子は、環境省の海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用して作成しています。

はじめに

天草市は、東シナ海・有明海・八代海の3つの海に囲まれ、豊かな水産資源を活用した漁業を主産業とし、雲仙天草国立公園に代表される自然環境や野生のイルカが生息する（イルカウォッチング）など、観光資源にも恵まれています。

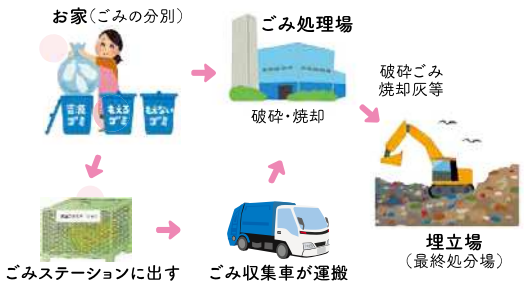
天草市では、この貴重な自然環境や水産資源にあふれた「宝の海」を市民が誇りと愛着を持ち続け、後世に継承できるよう、環境保全活動を推進しています。

天草市のごみ事情



令和3年度に日本全国で出たごみは、平均して1日1人当たり890ｇ。日本の総人口の減少に比例し、ごみの量も減少傾向で推移しています。天草市では、市制施行以降、毎年1千人以上もの人口が減少している一方で、ごみの1日1人当たりの排出量は、平成29年度以降増加の一途をたどっています。令和3年度には1日1人当たり**901ｇ**のごみを排出する結果となりました。これは、熊本県内45市町村のうち**7番目**に多い数字となっており、そして、これらのごみを処理するのに、年間**15億円**以上もの経費がかかっています。次世代にすみよい天草をつないでいくために、ごみの削減は喫緊の課題となっています。

ごみのゆくえ



使い捨て型社会から循環型社会へ！　～3Rのススメ～

私達の生活は、豊かさと便利さのために、貴重な天然資源を使って物を「大量生産」し、それを「大量消費」し、そして「大量廃棄」し、たくさんのごみを生み出しました。その結果、天然資源の枯渇や環境汚染、地球温暖化、生態系への影響などの様々な環境問題が生まれ、人間の生活や生命にも大きな影響を与えるようになってきました。

こうした問題を解決しながらも豊かな社会を維持するためには、「使い捨て型社会」から抜け出し、「循環型社会」に変えていかなければなりません。

そのために、私達ひとりひとりが毎日の生活の中で、

①そもそもごみを発生させない「Reduce：リデュース（減らす）」、
②捨てずにくりかえし使う「Reuse：リユース（再利用する）」、
③再び資源として活用する「Recycle：リサイクル（生まれ変わらせる）」

この3つのRを、この順番で意識して生活することが重要なのです！



1.Reduce：リデュース … ごみの発生を抑えること



2.Reuse：リユース … 繰り返し利用すること

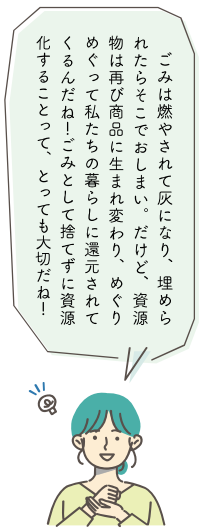


3.Recycle：リサイクル … 生まれ変わらせて再生利用すること



資源物の行方 ※一例

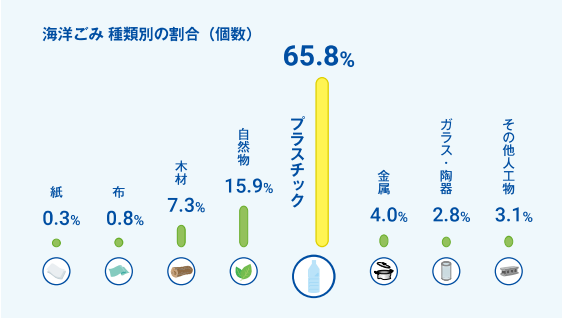




～海ごみについて

海ごみの半分以上を占めるもの

海ごみにはさまざまな種類がありますが、もっとも問題視されているのが「プラスチックごみ」。海洋ごみの半分以上を占めるプラスチックごみは、その素材の性質上、滞留期間が非常に長く、中には400年以上海の中を漂い続けているものもあるといわれています。（出典：環境省「海洋ごみをめぐる最近の動向」（平成30年９月））



プラスチックが私たちにもたらしたもの

プラスチックは、軽くて丈夫で、持ち運びしやすく、安価で、加工しやすいなど、たくさんのメリットがあるため、私たちの生活を便利で豊かなものにしてくれました。

しかし、レジ袋やペットボトル、使い捨てストローやスプーンなど、たった1回使っただけでごみになってしまうものもたくさん生まれました。

このようなプラスチックごみが街でポイ捨てされたり、屋外に放置されたり、あるいは知らず知らずのうちに紛失したりしたあと、風に飛ばされたり雨で流されたりして、河川に入り、海に流れ出てしまいます。海に流れ出たプラスチックごみは、波や風でプカプカと遠くまで運ばれ、水面や水中を浮遊したり海底に沈んだりして、400年以上もの長い間中、自然分解されずに海を漂うことになるのです。

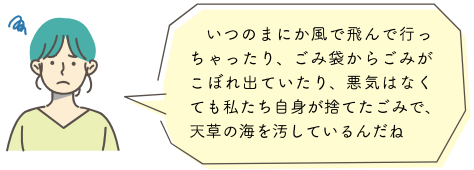
（画像：政府広報オンラインより）





海のごみの7～8割は私たちが暮らす街から出たもの

環境省の調査によると、平成28（2016）年度に全国で回収した漂着ごみはおよそ3万トンでした。日本の海ごみは、外国から流れ着いたものが多いと思われがちですが、実は、日本国内の陸から発生したものが7～8割を占めると考えられています。





天草の海岸（海水浴場）にもたくさんのプラスチックごみが…

プラスチックの何がいけないの？

例えば海に浮かぶレジ袋は、海の生き物たちにとってはおいしそうなクラゲに見えるそうです。それを誤って食べて、胃にとどまり、きちんと餌を食べられずに餓死する例や、海を浮遊する漁網に絡まって抜け出せなくなり死んでしまう例など、自然物ではないプラスチックが海にあることで、海の生き物に直接的に影響を及ぼしています。

マイクロプラスチックって？

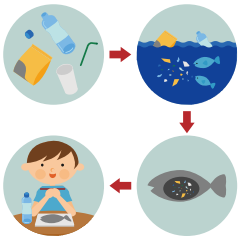
プラスチックは自然分解されることはありません。しかし、海を漂う間に紫外線や波の影響を受け、小さく砕けることはあります。そうして砕けて、５㎜以下になったものを「マイクロプラスチック」と呼びます。

海にマイクロプラスチックがあると何がいけないのかというと、

- **品質の悪いプラスチックもあるため、それ自体が持つ有害物質が海に染み出ること**
- **プラスチックや有害物質が生物の体内に蓄積され、食物連鎖していくと、生態系へどのような影響があるのか未だ解明されていないこと**

など、様々な問題点があげられます。さらに、

- **マイクロプラスチックを回収することは非常に難しく、回収スピードより発生スピードの方が速いこと**も問題視されています。



私たちに出来ることは？

プラスチックは私たちの暮らしに必要不可欠。でも、代替可能なものは出来るだけプラスチックを使わないという選択ができます（ペットボトル、スプーン、ストロー、レジ袋など）。また、プラスチックごみがいつの間にか環境中に流出しないよう気を付けることや、落ちているものを見つけたら拾って適切に処分することもできますね。それ以前に、要らない物は買わない、もらわない、捨てる前に使いたい人を探すなど、まさに**3R**を心がけることが、海のマイクロプラスチックを減らすことにもつながるのです！

「結論」

海ごみを減らそう！ そのために 分別を頑張ろう

YouTube 海洋プラスチックごみ削減啓発動画公開中！▶